



▲子リス幼稚園でダンスによる歓迎を受ける

姉妹都市締結10周年を記念し、第9次親善訪問団として、私達3名は、7月2日から9日までの一週間、原田市長の親書を携え姉妹の友情の輪をより広めるための訪問をいたしました。

訪問中は、ウベエフ市長を始め多くの市民の方々から暖かい歓迎を受け、隣人の友との再会を喜び合っていました。

ウラン・ウデ市での5日間を、見たまま、聞いたままの姿を報告したいと思います。

▽7月2日

新潟空港を一路北上を続け約2時間後、ソ連の極東の玄関ハバロフスクに到着。

33度を超える猛暑の中で、ウ市執行委員二ヤゴロフ氏を始め関係者4名の出迎えを受け2年ぶりの再会をしました。

▽7月4日

ハバロフスク空港を飛び立った私達一行は

児教育と保育を二交替で混合運営しているのに注目しました。

次にメリヤス工場を見学しました。ここで働く従業員は1600人、1日3万5000着を製造しています。その65%が子供用であり、主としてヨーロッパ地方へ輸出されています。

工場の規模は、ソ連国内で6番目にランクされています。増産体制の計画がありますが労働人口が少ないため、必然的に機械改革を進めることが当面の課題であると述べていました。

次は製菓工場を訪れました。従業員が400人で、やはり全体の75%が若年婦人労働者でした。

工場が建設されたのが昭和47年で、現在、年間2万トンの生産量であり、ありとあらゆるお菓子が製造されています。

つづいて科学アカデミーウラン・ウデ支部を訪ねました。モホソエフ部長を先頭に多数の科学者の出迎えを受けました。科学アカデミーでは、各種にわたる博士教



▲539名が寝むる日本人墓苑

午前4時にウラン・ウデ市に到着しました。空港には、ポルトニヤギン副市長、ブダイワ総務部長が出迎えに見えており、花束による歓迎を受け、姉妹都市訪問への一日が始まりました。

午前8時、ウラン・ウデ市役所を公式訪問しました。

三上団長より、ウベエフ市長とフロロフソ日協会支部長へ、それぞれ原田市長、居林日ソ協会留萌支部長から託された親書を手渡しました。

友好の握手を交わし、10周年をひとつの節目として今後とも経済、文化、青少年・児童の交流を通して、さらに相互の認識を深め一層の友好と平和を推進していくことを確認しました。その後、大民族祭と博物館を見学しました。

ソビエト連邦共和国は、ロシア共和国を始め14共和国がその自由意志に基づく総合体として連邦を結成しています。

ウ市は、従来よりシベリア鉄道の拠点都市として栄えて来ており、現在の人口は約30万人に達しています。

市は、大体3地方による行政区分をしています。ソ連が誇る広大なバイカル湖に注ぐ、



ウラン・ウデ市訪問団の報告

ウラン・ウデ市が姉妹都市の目になります。7月2日から9日まで、第9次留萌市代表団が親善訪問し、今回、ウ市を訪問したのは、梅沢文敏氏（行政代表）と隣町助役の三氏です。ウ市訪問いただきましたのでご紹介いたします。

セレンガ河を境にして、10月革命地区といわれており、科学アカデミー等施設センターがあり、文化の拠点地区となっています。都市建設は年々進んでおり、現在、58年度完成に向けて、耐震設計による13階建て高層ビルを建設中であり、これが完成しますと外国からの観光客を大幅に受け入れていくとのことでした。

ウベエフ市長の主権による歓迎夕食会には、市幹部職員、党首脳が多数集まりました。ウ市長は、「心から代表団の皆さんを歓迎いたします。10年目を迎えた留萌市とウ市の友好関係は、年を追うごとに深まりをみせ強固なものとなっています。さらに、この機会を得て相互の友好親善の絆を強くしてゆきたい」と語り、三上団長からも、「記念すべき10周年に訪問できて光栄であり、これを節目として、更に両国、両市の友好親善と平和の推進に努力を続けて行きたい」との決意を表明しました。

▽7月5日

最初に「子リス幼稚園」を訪問、児童による歓迎のダンスで迎えられました。

この幼稚園は、280名の園児を収容しています。ここでは、日本の内容と異なり、幼

の交流のための唯一の施設として、重要視されています。

電気工場を見学。ここでは、主に1000ワットのモーター、その他家庭電化製品を生産し、世界48ヶ国（特にドイツ、フランス）に輸出しています。ここでも同じく、労働人口の確保に頭を痛めていました。

▽7月8日

美術展覧会館を見学。この建物は昭和38年に建設され、世界でも有数の美術品が納められています。ソ連は、この様な歴史的文化的財の保護に力を入れていることを実感いたしました。

ウベエフ市長より原田市長への返書と幼児への図画を受取り、ウ市での5日間の日程を無事終了しました。

ウ市長を始め市関係者の見送りを受け、今後の両都市の友好の輪を広げると共に、ソ連と日本、留萌市民とウ市民の健康と発展を願いながら、私達は重任を果たした喜びを胸に、帰国の途に着きました。

（梅沢文敏氏記）



▶神秘的雰囲気につつまれたイボルガ仏教寺院



▶ブリヤート創設以前の資料がおさめられている博物館



▶年一回行われるブリヤート民族祭 ウベエフ市長と共に寄宿舎学校を訪問